

四半期報告書

(第36期第3四半期)

自 平成20年10月1日
至 平成20年12月31日

株式会社クレオ

東京都港区高輪三丁目19番22号

表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	
1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態及び経営成績の分析	5
第3 設備の状況	6
第4 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(5) 大株主の状況	8
(6) 議決権の状況	9
2 株価の推移	9
3 役員の状況	9
第5 経理の状況	10
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
2 その他	22
第二部 提出会社の保証会社等の情報	23

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【四半期会計期間】	第36期第3四半期（自平成20年10月1日至平成20年12月31日）
【会社名】	株式会社クレオ
【英訳名】	CREO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 土屋 淳一
【本店の所在の場所】	東京都港区高輪三丁目19番22号
【電話番号】	03（3445）3500（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 石塚 敏明
【最寄りの連絡場所】	東京都港区高輪三丁目19番22号
【電話番号】	03（3445）3500（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 石塚 敏明
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 （東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第3四半期連結 累計期間	第36期 第3四半期連結 会計期間	第35期
会計期間	自平成20年4月1日 至平成20年12月31日	自平成20年10月1日 至平成20年12月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売上高（百万円）	9,133	2,947	12,892
経常利益又は経常損失（△） （百万円）	△7	31	42
四半期純利益又は四半期（当期） 純損失（△） （百万円）	△109	10	△131
純資産額（百万円）	—	4,522	4,725
総資産額（百万円）	—	7,180	7,626
1株当たり純資産額（円）	—	507.63	519.49
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期（当期）純損失金額（△） （円）	△12.24	1.19	△14.32
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	62.7	61.2
営業活動によるキャッシュ・フ ロー（百万円）	277	—	681
投資活動によるキャッシュ・フ ロー（百万円）	△200	—	550
財務活動によるキャッシュ・フ ロー（百万円）	△153	—	△438
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	2,461	2,537
従業員数（人）	—	965	936

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第36期第3四半期連結累計期間及び第35期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、1株当たり四半期（当期）純損失であり、また希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第36期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社クレオ）、子会社4社及びその他の関係会社1社により構成されており、情報サービス事業として、システム開発、Z e e M製品の開発及び販売、コンシューマ向けパッケージ製品の開発及び販売、携帯サイトコンテンツの開発、サポート&サービス等を営んでおります。

当第3四半期連結会計期間における、各部門に係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

<システム開発事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<Z e e M事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<コンシューマサービス事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<サポート&サービス事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<モバイル事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<その他の事業>

平成20年10月に、従来からの事業内容のうちI d b A関連のソフトウェア開発及び販売事業から撤退しました。

これに伴い、㈱サイオ（子会社）は売却しました。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社であった㈱サイオは当社が所有する株式をすべて売却したため、子会社ではなくなりました。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	965
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、出向受入者を含み出向転出者を除いて記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	672
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であり、出向受入者を含み出向転出者を除いて記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
システム開発事業（百万円）	972
ZeeM事業（百万円）	549
コンシューマサービス事業（百万円）	558
モバイル事業（百万円）	114
サポート&サービス事業（百万円）	719
その他の事業（百万円）	5
合計（百万円）	2,919

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当第3四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高（百万円）	受注残高（百万円）
システム開発事業	1,058	961

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
システム開発事業 (百万円)	979
ZeeM事業 (百万円)	571
コンシューマサービス事業 (百万円)	558
モバイル事業 (百万円)	114
サポート&サービス事業 (百万円)	719
その他の事業 (百万円)	5
合計 (百万円)	2,947

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 当第3四半期連結会計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)
ソフトバンクBB(株)	479	16.3
ヤフー(株)	621	21.1

(注) 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、米国サブプライムローン問題を背景とする金融不安や、原油・原材料価格の高騰により、企業業績、個人消費ともに先行き不透明な状況が続いております。企業の設備投資については慎重な姿勢にあり、業績悪化が著しい業種においてはIT投資を手控える動きも出てきております。

このような状況の下、当社グループは事業基盤の強化と更なる事業拡大に向け、上期に引き続き既存のお客様との信頼関係に基づく安定した受注獲得、品質およびコスト管理の強化に努めてまいりました。その結果、売上高は29億47百万円、営業利益は10百万円、経常利益は31百万円、四半期純利益10百万円となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

システム開発事業においては、売上が堅調に推移し、受注管理の徹底により利益率が改善した結果、売上高は9億79百万円、営業利益は1億80百万円となりました。

Z e e M事業においては、上期のプロモーションによる商談数の増加によりライセンス及びサービスの売上が増加したことにより利益面においても大幅に改善いたしました。その結果、売上高は5億71百万円、営業損失は1億49百万円となりました。

コンシューマサービス事業においては、毛筆市場の低迷による減少はあるものの、最新の販売動向に見合った出荷に努め、「筆まめ」の販売シェアを拡大させシェアトップを維持いたしました。その結果、売上高は5億58百万円、営業利益は1億5百万円となりました。

モバイル事業については、売上は概ね計画通り推移し、経費削減に努めたことにより、売上高は1億14百万円、営業損失は10百万円となりました。

サポート&サービス事業においては、お客様の業務内製化により売上が減少したものの、経費削減等より利益が増加しております。その結果、売上高は7億19百万円、営業利益は71百万円となりました。

その他の事業においては、当四半期より株式会社サイオが連結除外となりました。それに伴い減収となり、売上高は5百万円、営業損失は1百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は4億14百万円の収入となりました。主な要因は、売上債権の減少額6億39百万円等であります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は21百万円の収入となりました。主な要因は、投資事業組合からの分配金による収入22百万円等であります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は18百万円の支出となりました。主な要因は、自己株式の取得による支出16百万円等であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除去、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成20年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成21年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,237,319	9,237,319	株式会社ジャスダック証券取引所	単元株式数 1,000株
計	9,237,319	9,237,319	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。
平成17年6月13日株主総会決議

	第3四半期会計期間末現在 (平成20年12月31日)
新株予約権の数 (個)	204
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株
新株予約権の目的となる株式の数 (株)	204,000
新株予約権の行使時の払込金額 (円)	838
新株予約権の行使期間	自 平成19年6月14日 至 平成22年6月13日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 838 資本組入額 419
新株予約権の行使の条件	対象者として新株予約権を付与された者は、新株予約権行使時において当社の取締役、監査役、執行役員及び従業員であることを要する。
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成20年10月1日～ 平成20年12月31日	—	9,237,319	—	3,149	—	787

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成20年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 273,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 8,859,000	8,859	同上
単元未満株式	普通株式 105,319	—	—
発行済株式総数	9,237,319	—	—
総株主の議決権	—	8,859	—

②【自己株式等】

平成20年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （%）
株式会社クレオ	東京都港区高輪三丁目19番22号	273,000	—	273,000	2.96
計	—	273,000	—	273,000	2.96

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高（円）	275	272	265	243	229	197	180	190	219
最低（円）	240	235	239	200	180	155	100	154	164

（注） 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人ナカチによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,562	2,644
受取手形及び売掛金	※4 2,225	2,392
商品	3	2
製品	29	19
仕掛品	471	272
その他	209	262
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	5,497	5,590
固定資産		
有形固定資産	※2 249	※2 255
無形固定資産		
のれん	282	353
その他	480	615
無形固定資産合計	762	969
投資その他の資産	※3 671	※3 811
固定資産合計	1,683	2,036
資産合計	7,180	7,626
負債の部		
流動負債		
買掛金	395	637
1年内償還予定の社債	150	150
短期借入金	10	60
未払法人税等	14	105
賞与引当金	253	466
役員賞与引当金	0	10
返品調整引当金	311	68
その他	1,004	809
流動負債合計	2,140	2,307
固定負債		
社債	325	400
長期借入金	13	20
退職給付引当金	80	74
役員退職慰労引当金	30	25
未払役員退職慰労金	65	72
その他	2	—
固定負債合計	517	592
負債合計	2,658	2,900

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	1,428	3,759
利益剰余金	90	△2,031
自己株式	△121	△200
株主資本合計	4,546	4,676
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△43	△12
評価・換算差額等合計	△43	△12
少数株主持分	19	62
純資産合計	4,522	4,725
負債純資産合計	7,180	7,626

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

売上高	9,133
売上原価	6,825
売上総利益	2,307
販売費及び一般管理費	※ 2,339
営業損失(△)	△32
営業外収益	
受取利息	3
受取配当金	1
投資事業組合運用益	19
その他	8
営業外収益合計	33
営業外費用	
支払利息	5
その他	2
営業外費用合計	8
経常損失(△)	△7
特別利益	
貸倒引当金戻入額	2
その他	0
特別利益合計	3
特別損失	
固定資産売却損	2
固定資産除却損	6
関係会社株式売却損	10
減損損失	5
その他	10
特別損失合計	34
税金等調整前四半期純損失(△)	△38
法人税、住民税及び事業税	26
法人税等調整額	65
法人税等合計	91
少数株主損失(△)	△19
四半期純損失(△)	△109

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間
(自 平成20年10月1日
至 平成20年12月31日)

売上高	2,947
売上原価	2,129
売上総利益	817
販売費及び一般管理費	※ 807
営業利益	10
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	0
投資事業組合運用益	19
その他	2
営業外収益合計	23
営業外費用	
支払利息	1
その他	0
営業外費用合計	2
経常利益	31
特別利益	
関係会社株式売却益	0
貸倒引当金戻入額	0
特別利益合計	0
特別損失	
固定資産除却損	0
関係会社株式売却損	10
その他	2
特別損失合計	13
税金等調整前四半期純利益	19
法人税、住民税及び事業税	0
法人税等調整額	8
法人税等合計	9
少数株主損失(△)	△0
四半期純利益	10

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△38
減価償却費	412
減損損失	5
のれん償却額	66
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△213
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△9
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	5
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	6
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	242
受取利息及び受取配当金	△4
支払利息	5
有形固定資産売却損益 (△は益)	2
有形固定資産除却損	5
無形固定資産除却損	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	5
関係会社株式売却損益 (△は益)	10
投資事業組合運用損益 (△は益)	△19
売上債権の増減額 (△は増加)	156
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△213
仕入債務の増減額 (△は減少)	△240
未払金の増減額 (△は減少)	120
その他	92
小計	393
利息及び配当金の受取額	4
利息の支払額	△5
法人税等の支払額	△116
営業活動によるキャッシュ・フロー	277
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△84
有形固定資産の売却による収入	0
無形固定資産の取得による支出	△252
投資有価証券の取得による支出	△0
関係会社株式の売却による収入	3
投資事業組合からの分配金による収入	22
定期預金の預入による支出	△100
定期預金の払戻による収入	107
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△0
差入保証金の回収による収入	14

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

保険積立金の解約による収入	2
その他	89
投資活動によるキャッシュ・フロー	△200
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△56
社債の償還による支出	△75
自己株式の取得による支出	△20
配当金の支払額	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△153
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△76
現金及び現金同等物の期首残高	2,537
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,461

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更 第3四半期連結会計期間より株式会社サイオは売却したため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 4社</p>
2. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更 たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、原価法から原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。 これによる当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失への影響はありません。</p> <p>(2) リース取引に関する会計基準の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。 また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、リース取引開始日がリース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理をおこなっております。 これによる当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失への影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
一般債権の貸倒見積高の算定方法	当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
(連結納税制度) 第1四半期連結会計期間から連結納税制度を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)												
<p>1. 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当第3四半期連結会計期間末の借入金未実行残高は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額の総額</td> <td>500百万円</td> </tr> <tr> <td>借入金実行残高</td> <td>— 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>500百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額の総額	500百万円	借入金実行残高	— 百万円	差引	500百万円	<p>1. 当社においては運転資金の効率的な調達を行なう為取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計期間末の借入金未実行残高は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>当座貸越極度額の総額</td> <td>500百万円</td> </tr> <tr> <td>借入金実行残高</td> <td>— 百万円</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>500百万円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額の総額	500百万円	借入金実行残高	— 百万円	差引	500百万円
当座貸越極度額の総額	500百万円												
借入金実行残高	— 百万円												
差引	500百万円												
当座貸越極度額の総額	500百万円												
借入金実行残高	— 百万円												
差引	500百万円												
<p>※2. 有形固定資産の減価償却累計額は、432百万円であります。 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。</p>	<p>※2. 有形固定資産の減価償却累計額は、459百万円であります。 同左</p>												
<p>※3. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 139百万円</p>	<p>※3. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 144百万円</p>												
<p>※4. 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。</p> <table> <tr> <td>受取手形</td> <td>1百万円</td> </tr> </table>	受取手形	1百万円	<p>※4. _____</p>										
受取手形	1百万円												

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は 次のとおりであります。	
販売促進費	125百万円
広告宣伝費	246
給与手当及び賞与	767
退職給付費用	29
賞与引当金繰入額	56

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は 次のとおりであります。	
販売促進費	71百万円
広告宣伝費	89
給与手当及び賞与	208
退職給付費用	10
賞与引当金繰入額	56

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸 借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在) (百万円)	
現金及び預金勘定	2,562
預入期間が3か月を超える定期預金	△101
現金及び現金同等物	<u>2,461</u>

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 9,237千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 366千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

5. 株主資本の金額の著しい変動

当社は第35期株主総会(平成20年6月18日)にて欠損填補を行ったため、第1四半期連結会計期間において資本剰余金が22億31百万円減少し、利益剰余金が22億31百万円増加しております。

また、取締役会決議(平成20年9月9日)にて自己株式の消却を平成20年9月26日に行ったため、第2四半期連結会計期間において資本剰余金が99百万円減少し、自己株式が99百万円減少しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が14億28百万円、利益剰余金が90百万円及び自己株式が△121百万円となっております。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）

	システム 開発事業 (百万円)	Z e e M 事業 (百万円)	コンシュー マサービス 事業 (百万円)	モバイル 事業 (百万円)	サポート &サービス 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売 上 高									
(1) 外部顧客に対する売上高	979	571	558	114	719	5	2,947	—	2,947
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	4	0	—	125	0	132	△132	—
計	981	576	558	114	844	5	3,080	△132	2,947
営 業 利 益 (又は営業損失△)	180	△149	105	△10	71	△1	196	△185	10

当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	システム 開発事業 (百万円)	Z e e M 事業 (百万円)	コンシュー マサービス 事業 (百万円)	モバイル 事業 (百万円)	サポート &サービス 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売 上 高									
(1) 外部顧客に対する売上高	3,365	1,783	1,445	362	2,140	36	9,133	—	9,133
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	7	11	0	—	355	25	400	△400	—
計	3,372	1,795	1,445	362	2,496	62	9,533	△400	9,133
営 業 利 益 (又は営業損失△)	568	△388	293	△54	179	△49	549	△581	△32

(注) 1. 事業区分の方法

事業は商品又は役務提供の系列及び事業の種類・性質の類似性を考慮して行っております。

2. 各区分に属する主要な商品又は役務の名称

事業区分	主要商品又は役務の名称
システム開発事業	(システムインテグレーションサービス) 企画提案からシステム要件定義、システム設計、プログラム作成、その後の保守ま での一貫したサービス、サポートサービス (アプリケーション開発) 先進的な業務システムの開発 (基本ソフトウェア開発) ハードメーカとの技術協力による先端ソフトウェアの開発
Z e e M事業	人事・給与、会計等のソフトウェアパッケージの開発販売 インターネット会議システム「FACE Conference™」の販売、 プリント・ソリューションの開発・販売等
コンシューマサービス事業	毛筆ソフト、デジタルカメラ画像処理ソフト等のソフトウェアパッケージの開発販 売、筆まめ関連インターネット・サービス
モバイル事業	携帯サイトコンテンツ開発・サービス、自社モバイルソリューションの開発・販売
サポート&サービス事業	コンピュータに関する顧客サポート、教育の受託等
その他の事業	I d b A関連のソフトウェア開発・販売等 シニア向けインターネット・サービス

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 （平成20年12月31日）		前連結会計年度末 （平成20年3月31日）	
1株当たり純資産額	507.63円	1株当たり純資産額	519.49円

2. 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額等

当第3四半期連結累計期間 （自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）		当第3四半期連結会計期間 （自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）	
1株当たり四半期純損失金額	12.24円	1株当たり四半期純利益金額	1.19円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しております。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

（注） 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 （自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）	当第3四半期連結会計期間 （自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額		
四半期純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	△109	10
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	△109	10
期中平均株式数（千株）	8,950	8,921
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月12日

株式会社クレオ

取締役会 御中

監査法人ナカチ

代表社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 算浩 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 平田 卓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クレオの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クレオ及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。